

田中 忠三郎（たなか・ちゅうざぶろう）

1、プロフィール

1933 年下北郡川内町（現むつ市）に生まれ、独学で遺跡発掘や民具の収集・研究に取り組んだ民俗研究家。収集した「田中コレクション」は2万点に及ぶ。小川原湖民俗博物館館長、（財）稽古館館長を歴任。長年さまざまなメディアで考古学や民俗・民具などについて論評し、著書も多数。

<生没>

1933(昭和8)年 11 月 26 日～2013(平成 25)年3月5日

<代表作>

南部つづれ菱刺し模様集(1977)・みちのく民俗散歩(1977)・私の蝦夷ものがたり(1979)・田中忠三郎コレクション目録(1992)・津軽、南部のさしこ着(2000)・サキオリから裂織へ(2007)など

<青森との関わり>

川内町に生まれ、旧制弘前中学、県立八戸水産高校、県立大湊高校で学ぶ。平内町・槻の木遺跡などを発掘後、小川原湖民俗博物館館長、（財）稽古館館長を歴任。佐井村海峡ミュージアム設立に尽力した。

2、作家解説

1933 年(昭和8年)下北郡川内町（現むつ市）生まれ。少年の頃から考古マニアで、23 歳から単独で槻の木遺跡・一本松遺跡(共に平内町)を 10 年間発掘。1977 年より布を中心にした民具の収集・研究に取り組む。小川原湖民俗博物館(三沢市)館長、1991～1998 年(財)稽古館(青森市)館長を務める。1965 年頃より県内外の新聞・雑誌などに、民俗に関わる論考・随筆を発表。稽古館館長時代は、「季刊稽古館」を 20 号発行した。また、テレビ・ラジオなどで県内の考古・民俗をわかりやすく紹介した。

1977年に『南部つづれ菱刺し模様集』(北の街社)を出版以来、多数の著書のほかに、『北海道・東北地方の民具』(1982年・明玄書房)、『北海道・東北地方の水と木の民俗』(1986年・明玄書房)、『神奈川大学日本常民文化研究所調査報告第11集 仕事着—東日本編』(1986年・平凡社)、『甦る縄文の思想』(1993年・有学書林)、『雪国の視座—ゆきつもる国から』(2001年・毎日新聞社)などの共著も多い。

長年にわたり収集された「田中コレクション」は、衣・食・住に関わる民具など2万点に及ぶ。うち、津軽、南部さしこ着786点が国の有形民俗文化財(県立郷土館管理)、紡織用具520点が県の有形民俗文化財に指定された。収集民具などから、寺山修司監督の映画「田園に死す」(1975年)の民俗考証、青森放送制作「下北能舞伝承」(1981年・地方の時代賞映像祭大賞受賞)の民俗考証、黒澤明監督の映画「夢」(1990年)衣装協力、映画「菅江真澄の旅」(2002年・紀伊国屋書店)衣装考証などを担当した。2009年には、田中コレクションに触発された『BORO つぎ、はぎ、いかす。青森のぼろ布文化』(アспект社・小出由紀子など編集)も出版された。

1979年青森県芸術文化報奨、同年川内町より文化功労者として表彰、1983年紺綬褒章受賞。日本民具学会会員、北海道・東北民具研究会会長、青森ネブタ祭奨励委員長を務めた。

3、資料紹介

○『私の蝦夷ものがたり』

図書

1979(昭和54)年5月15日

290mm×217mm

23歳から10年間独自で縄文遺跡の発掘を続けた著書の文と写真で、月刊誌「あかりしび」(北の街社)に5年余にわたって連載し、同社から発行。古代東北の野山に力強く存在した縄文の人びと、蝦夷とよばれた人びとに激しく心動かされ、彼らと「資料の一つ一つに心をこめて接することが対話であると考えた。(中略)こ

の本は私と古代の人びととの心の対話から生まれたとあっていい」と著者はあとがきに記載している。